

第1回「外語会海外ツアー」 和やかに、楽しく終わる

外語会文化委員会では、外語会親睦の旅「文化を訪ねる海外ツアー」として、台湾への旅行を企画し11月26日から3泊4日の日程で出掛けました。外語会会員14名に家族友人を加え総勢21名で創立70周年の故宮博物院を見学し、外語会台湾支部との親睦会を開催しました。地方旅行(花蓮)、ゴルフ、京劇等盛り沢山でしたが、終始和やかで、楽しく、全員疲れもみせず元気に帰国しました。

このツアーを通して沢山の素敵な仲間と巡り会い、外語会の輪も広がったように思います。4年後の外語大創立百周年に向けて更に大きく広がって行く事を期待します。第2回「外語会海外ツアー」もぜひ実行したいと思います。次回会報でお知らせします。多くの方の参加をお待ちしております。

なお、台湾支部長の古賀正人氏 (Im24)、プリヂストン航空サービス㈱の中村完社長 (Ic33) 及び、中川様にはいろいろとご無理をお願いしお世話になりました。文化委員会より感謝申し上げます。

文化委員会主催第1回海外ツアーに参加して

笠井 治子 (Ic43)

11月26日(日)外語会ツアー総勢21名の一行は成田を出発し3時間半で気温23度Cの台北忠正空港に到着しました。台北市内は12月2日の立法院選挙の直前ということもあって、選挙用横断幕や看板が林立し市内を走るバスの車体にも立候補者名や写真入りの賑々しさでした。午後は龍山寺、総督府、忠正記念堂の市内観光を済ませ、夕食は天厨大飯店で北京料理の卓を囲みました。

翌27日は今回ツアーの目的の一つである故宮博物館の見学。さすがに5000年の歴史を誇る故宮の文物だけにどれを見ても圧倒されるものばかり。本物を目の前にして、ため息が出るばかりでした。丸一日各階を行ったり来たりしては、陶磁器、書画、玉器、彫刻、刺繍、漆器等を堪能しました。

この日の夜が今回ツアーのもう一つの目的でもある台湾支部との懇談会。メンバーは、台湾側が古賀正人支部長 (Im26) (以下敬称略) 蔡德馨 (E9) 鍾逸人 (F16)、陳普徳 (F16)、游秀隆 (C19)、林綺雲 (J49)、渡辺章平 (C33)、押田

忠男 (C50)、尾田高美 (C63) 東京側が青山保 (E29)、石原隆良 (D31)、上野五郎 (S33)、上野栄子 (Po33)、沼尻重男 (F35)、泉山繁樹 (C35)、久保田勇三 (C36)、白土公一 (IC37)、神奈川孝子 (F37)、相馬寿美乃 (F39)、富山絢子 (F39)、鈴木公子 (F40) 笠井治子 (Ic43)、斎藤みち子 (M平2)、及び家族、友人の総勢31名でした。

古賀支部長お奨めのレストラン彭園に東京から持参した横断幕「台湾・東京外語会交流会」——外語会事務局の岡さん (S26) 揮毫——を掲げ懇親会は始まりました。

鈴木幸壽理事長のメッセージ (神奈川総務副委員長代読)、乾杯、自己紹介、写真撮影。范姜雲鶴氏 (E20) 差し入れのワインと湖南料理に舌鼓を打ちながら賑やかな楽しい交流の一時でした。それぞれの自己紹介の中で戦前から台湾での英語・日本語教育の大御所として今もなおかくしゃくとして居られる蔡先生、反中国活動で一時は死刑宣告され、その後も波乱万丈の人生を送り、現在は民進党で活躍している鍾さん、ビジネス界で成功し、台湾、バンクーバー、東京を結んで活躍中の游さん、更にはテレビの教育番組で日本語教育に尽力されている大学教師の林さん等各界でのご活躍ぶりは興味深く、印象的でした。とくに蔡先生が台湾史を語る中で、戦前の話に言及され、日本の積極的貢献を高く評価されたことは戦後50年の節目にふさわしく感慨深いものがありました。

予定の時間をオーバーし名残りを惜しみつつ東京での再会を約束して散会しました。

3日目は自由行動の日で、花蓮タロコ渓谷観光に出かける人、ゴルフをする人、郊外のお寺に行く人、市内を散策する人と、思い思いに楽

しました。

そしてこの夜、前日にお会いした林さんが案内して下さることとなり希望者13人で京劇見物となりました。パンフレットによると、この日の京劇は台湾の豫曲 (京劇) 劇団が大陸の河南省安陽市の豫劇 (京劇) 団との文化交流を願ひ長年交渉してきた結果、漸く実現した記念すべき「第1回海峡兩岸豫劇 (京劇) 合同公演」だったのです。

林さんの解説で難しいと思われた京劇も面白く、最後まで楽しみ、11時近くにホテルに戻ってきました。この後も市内に繰り出す人、部屋で飲み始めるグループと台湾最後の夜は午前2時頃まで続きました。

帰国して3日後、12月2日の選挙結果は李登輝総統率いる国民党の辛勝となりました。政治的、軍事的緊張が高まりを見せている中台関係ですが、そんな中で京劇の合同公演のような「兩岸」の文化交流を垣間見たことは嬉しいことでした。

陳普徳 (F19) さんから外語会にお便りをいただきましたので次にご紹介いたします。

此度は同窓の皆様多数でお越しなさいましたが、私台中在住なのでなにもおこまい出来なかったのを遺憾に思っています。懇親会席上、お若い同窓各位の朗らかで活気ある御様子をほんの数時間一緒にさせて頂いただけでしたが、一介の老書生の私にとってとても懐かしく、又頼もしく思いました。年代は違っていても、単に東京外語同窓という誼を有つだけで、すぐに隔てなくとけ混み合うのが東京外語生の特徴であると改めて身に沁みる思いでした。そして戦時中私が上海・北京在職中——すでに50数年前の事ですが——の頃を思い出し感慨一入です。

